

### 大般若会中止のお知らせ

このたびの新型コロナウイルス感染症の影響により、感染の拡大を思慮し、曹洞宗宗務庁より宗教行事の自粛の要請がありました。つきましては、今年度六月十日(水)に予定しておりました当寺大般若法要は中止いたします。何卒ご理解ご了承をお願い申し上げます。

檀信徒の皆様にはご自愛のほど祈念申し上げます。

#### 役員退任と就任

八田 渡辺吉蔵氏 退任  
井上伸一氏 就任  
八幡政勝氏 退任  
桐生和芳氏 就任  
三宅俊實氏 就任  
佐久間敏昭氏 就任

退任された渡辺吉蔵氏、八幡政勝氏には長年にわたりお寺発展に尽力されて来られました。感謝申し上げます。新任の井上伸一氏、桐生和芳氏、三宅俊實氏、佐久間敏昭氏には今後お世話になります。が宜しくお願いたします。

#### 龍峰山雲泉寺

##### 御開山 源翁心昭禪師

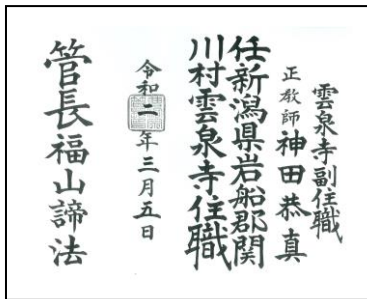
##### (大寂院法王能昭禪師)

雲泉寺は延文三年(1359)頃能登總持寺(現在は鶴見)峨山韶碩禪師の弟子である源翁心昭和尚によつて開かれた。古くは知足庵と称し真言宗に属した光鬼山系の修験者の庵であったと伝えられている。当初は源翁和尚と師弟関係でもある真言宗の僧侶、法秀阿闍梨が閑居し、阿闍梨は天に龍を見る寺名を龍峰院と改めた。その後諸国行脚中の源翁和尚が龍峰院を訪れるが、間もなくして法秀阿闍梨は遷化された。茶毘に付された際に境内の老杉が倒れ根元から温泉が湧き出た。源翁和尚はこの靈験に感謝して寺名を温泉寺と改め、また、倒れた老杉から師匠峨山禪師の尊像を彫刻され今に伝わっている。修行道場であったため、温泉は後に封じることとなるが、信者の力に支えられながら雲泉寺と寺名を改め現在に至っている。

源翁禪師は栃木県那須野ヶ原の殺生石を濟度された功により、

勅賜号「大寂院法王能昭禪師」、紫衣を賜る。源翁和尚以後無任の時代が続く荒廃していくが、十一世雪翁和尚、十二世説巖和尚の代に修復復興し、現在まで檀信徒の信仰心と近隣寺院の力により法灯が護持相統されている。

雲泉寺のご本尊である釈迦如来座像、脇侍の文殊菩薩、普賢菩薩は説巖和尚の代に村上城主松平大和守より拝領したものとされる。源翁和尚により禅風宣揚の偉業から近代まで法灯伝承し、明治年間には曹洞宗出世の道場として、格地随意会地の寺格を授けられた。



福山諦法曹洞宗管長猊下よりいただいた雲泉寺住職の辞令

このたび令和二年三月五日付けにて、曹洞宗宗務庁より住職辞令が送付されてきました。恭真和尚は雲泉寺第二十九世として法灯護持に務めることになる。

#### 口梅花だより

歸命頂礼瑩山の 玉はおのずと輝きて 明るく円かに世を照らす 法の聖となりたもう

#### 大祖常済大師瑩山禪師

##### 讚仰御和讃

令和六年には大本山總持寺を開かれた大祖瑩山紹瑾禪師の七百回大遠忌を迎えます。曹洞宗開祖道元禪師の法は孤雲懷奘禪師、徹通義介禪師、そして瑩山紹瑾禪師、總持寺二祖峨山韶碩禪師から全国の祖師方へと伝えられた教えを受け継がれて今に至っています。瑩山禪師は釈迦さまの教えである「正法」を全国へと広められ、曹洞宗発展の基礎を築かれたお方でありました。大本山總持寺で行われる五十年に一度の大法要です。

梅花流詠歌 CD 供養編 ~御霊よ永久に安らわん~

無常御和讃・追善供養御和讃のほか、ご供養の曲を収録しております。(頒価 ¥1,000+税)

※ CDのご注文は 曹洞宗ブックセンターまで  
フリーダイヤル: 0120-498-971

お問い合わせ先 曹洞宗宗務庁伝道部詠歌課 (03)3454-5416

曹洞宗では梅花流詠歌 CD「供養編~御霊よ永久に安らわん~」を販売しています。ご希望の方はお寺までご連絡ください。